

ほけんだより

伏古北小学校
第 10 号
令和 7 年 11 月 5 日



こころ からだ いのち がくしゅう 心と体と命の学習について



各学年の発達段階に応じた心と体と命の学習（性に関する指導）を行っています。学習を通して、自分や友達、家族など周りの人を大切に思う気持ち、命を大切にする気持ちを育ててほしいと思います。

学年	題材	内容とねらい
1年生	パンツはなぜはくの？(実施済)	誕生の喜びに触れ、一人ひとりの命が大切なものであることを気付く。パンツで覆われているところに命を生み出す器官があることを知り、清潔や安全に配慮する心を育てる。
2年生	おへそっていいな	赤ちゃんはへその緒を通して、母のお腹の中で大切に育てられたことを理解し、自分の命を大切にしようとする気持ちを育てる。
3年生	ぼく・わたしの誕生	赤ちゃんが母親のお腹の中でだんだん成長していく様子を知り、家族の愛情に包まれて誕生し、成長してきた自分の命の大切さに気付く。
4年生	生命の誕生、生命の大切さ (助産師による講話)	自分の命は、多くの愛情を受け継いだかけがえのない命であることに気付く。思春期における体の変化は、命を育む大事な変化であることを知り、自分や友達の成長を肯定的に捉える心をもつ。
5年生	大人に近づく体 (実施済)	初めての宿泊行事前に思春期に起こる体や心の変化に個人差や性差があることを再確認する。月経や射精の仕組みや手当ての仕方を理解し、自己の成長に対する不安を解消する。
6年生	命の誕生と尊さ (助産師による講話)	1～5年生までの性に関する指導を通して学んできたことを踏まえ、助産師の講話を基に命の大切さを再確認する。



～6年生の心と体と命の学習の様子～

先日、元町総合クリニックの稲場千晶先生(助産師)に授業をしていただきました。今回は、命の大切さや助産師という職業についても詳しくお話をいただきました。先生の人柄がわかるお話の数々で、子どもたちや一緒に参加した教員にとっても、貴重な時間となりました。子どもたち、担任の先生方の感想を御紹介します。12月に4年生も授業をしていただく予定です。



ねんせい かんそう いち ぶ しょうかい
 ～6年生の感想の一部を紹介～お子さんとお読みください

- ・今、生きているのは、当たり前じゃなくて**奇跡**だと知った。命は、この世で一番貴重なもので、お母さんが無事に生んでくれて**感謝**している。照れくさいけど、「**ありがとう**」を伝えたい。
- ・今、自分が生まれているのは奇跡で、**自分が生まれたことがうれしい**。
- ・自分が今ここにいるのは、当たり前のことではないし、お母さんが頑張って自分のことを思っ
て生んでくれたから、この**命を大切にしていこう**と思った。
- ・赤ちゃんは普通に生まれてくるのが当たり前だと思っていたけど、お腹の中で死んでしまう
赤ちゃんがいることを知って、自分が**今生きていることが当たり前じゃない**と思った。
- ・生きたくても生きられなかった赤ちゃんや生んであげられなかったお母さんと**最後までおき
あい**、支え続ける助産師がかっこいいと思い、あこがれの人になりました。
- ・言葉は、力になる言葉かけなら相手の力になるけど、嫌なことを言ったら相手の心に傷と
して残ってしまうかもしれない。相手にかける言葉は相手のことを考えて言いたい。**言葉の
力はとても強い**と感じた。
- ・赤ちゃんが亡くなってしまったときの話を泣きながら話してくれて、**自分たちのために話して
くれてうれしかった**。自分も想像したら泣きそうになった。
- ・実際に出産した人の手紙や写真が心に残りました。生まれた瞬間、
みんなが笑顔で**家族みんなにありがとう**と伝えたい。



6-1 関崎先生の感想

稲場先生のお話は、多くの現場に立ち会った
からこそ伝えられる心に響くお話でした。
命の大切さについてはもちろん、職業とし
ての助産師の大変さややりがいもお話しして
いただきました。子どもたちも真剣なまなざし
で話を聞いていました。今後の子どもたちの
学習や生活に生きていくはずです。

6-2 山口（麻）先生の感想

稲場先生から「人が産まれることは奇跡の
連続」と教えていただき、改めて命の大切さ
について考えた子どもたくさんいました。また、
助産師の仕事だけではなく、言葉の大切さにつ
いても学びました。自分が発する言葉の重みに
ついて、考えるきっかけに
なったと思います。



6-あおぞら 宿田先生の感想

「お母さんにとって赤ちゃんは、自分の命を懸けても守りたいもの。」という稲場さんのお話
に、胸が熱くなりました。子どもたちにも、命の尊さが伝わったと思います。また、助産師の仕事
について、「向き不向きはない。“やりたい”と思ったことに挑戦してほしい。」と、
子どもたちの将来を後押ししてくださる言葉が嬉しかったです。



今回の授業を通して、子どもたちは命の大切さや感謝の気持ちを学びました。日頃、話を聞く機会のない助産師さんからの言葉に真剣に耳を傾けていました。また、助産師という仕事の話から、言葉の大切さや思いやりの気持ちも学びました。自分の声掛け一つで相手のことを勇気づけることも悲しい気持ちにさせることもできる言葉。6年生に限らず、この機会に、子どもたちと命の大切さや言葉の大切さについてお話をさせていただければと思います。**日頃、子どもには照れくさく
て言えない言葉もぜひ、この機会に子どもたちにお話ししていただけると嬉しいです。**

